

第7章 学生支援

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

【評価の視点】

1：大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示

- 1)大学の『学生の支援に関する方針』を次のとおり定め、ホームページに掲載している。「基本方針」、「修学支援」、「生活支援」、「進路支援」の項目でそれぞれ纏めている。「基本方針」の項目では、学是「仁」と理念「不断前進」を基盤とした教育を実践し、教員と学生間の距離が近いという伝統を背景に、学生一人ひとりが個性を發揮し、充実した学生生活を送れるように支援する方針を説明している。具体的には以下のとおりである。

＜基本方針＞

- ・学生が主体的に学修に取組み、資質・能力を十分に伸ばさせるとともに、生涯にわたり学び続ける態度が身に付くように支援します。
- ・学生の心身の健康保持に留意し、生活上の問題に関する相談に応じるなど、学生が安心して学修に専念できるように支援します。
- ・学生が課外活動や正課外プログラムを通じて学生生活を豊かにし、学是「仁」の心を育むとともに人間的成長と自立を促すように支援します。
- ・キャリア形成指導に注力し、学生一人ひとりの特性と希望に沿った適切な進路選択を支援します。

「修学支援」の項目では、担任やアドバイザーによる相談・指導體制、オフィスアワー等の日常的な学修相談制度、学術メディアセンターやラーニング・コモンズ等の設備環境、障がいをもつ学生への支援、留年者及び休・退学者の把握、各種奨学金・減免制度、留学生支援、大学院生の研究支援等、多岐に亘る支援方針を定めている。

＜修学支援＞

- ・学生が学修を円滑に進めていくことができ、安心して学生生活を送れるように、担任やアドバイザーが中心となり、学生一人ひとりに相談・指導を行います。
- ・オフィスアワー等の相談体制を充実し、日常的な学修相談に応じます。
- ・自主的な学修の推進を加速するために、情報通信技術手法の更なる導入と学術メディアセンター、ラーニング・コモンズ、自習室等設備環境の充実を図ります。
- ・障がいをもつ学生を支援するために、施設・設備のバリアフリー化を進めるとともに、ノートテイクナーなど学生ボランティアグループの積極的な関わりを推進します。
- ・留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、担任やアドバイザーが中心となり、関係各部署が連携して適切な対応を行います。
- ・本学独自の「佐藤・小川奨学基金」を財源とする「順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金」に基づき、学術研究やスポーツの各分野において、国際的な活躍が期待される本学学生・教員等の模範となる優秀な人材を育成します。
- ・外国人留学生に対して、国際交流センターにおいて、在留資格の諸手続き、住居や医療等の生活全般の相談業務、奨学金等についての情報提供、日本語教育などの修学支援を行います。
- ・「順天堂大学外国人留学生奨学金給付規程」に基づき、他の学生の模範となる成績優秀な外国人留学生を育成します。
- ・他の学生の模範となる成績優秀者を対象とし、学納金を減免し、教育研究の活性化を図ります。
- ・災害等により経済的理由から修学が著しく困難となった在学学生・新入生に対し、学納金の全額又は一部を減免し、学業の継続と進学のを支援します。

第7章 学生支援

- ・大学院生の研究を支援するために、大学院生が応募可能な研究費助成制度の充実を図ります。

「生活支援」の項目では、学生生活実態調査による生活及び学修行動の実態把握、安全衛生管理、ハラスメント防止、保護者との連携、クラブ活動やボランティア活動等の支援、さくらキャンパス学寮、留学生支援等、多岐に亘る支援方針を定めている。

＜生活支援＞

- ・学生部委員会が主体となり、学生生活実態調査（アンケート）を実施し、定期的に学生生活及び学修行動の実態把握を行い、学修・生活環境の改善に役立てます。
- ・各キャンパス安全衛生管理室に、医学部教員を校医として任命しているほか、学内外のカウンセラー等も配置し、学生の健康管理を行います。
- ・ハラスメント防止に向けての啓発活動を継続的に推進するとともに、学生相談室やハラスメント相談窓口等を設置して快適で安全な学生生活を送ることができるよう支援します。
- ・保護者との連携を図るため、各地で保護者懇談会等を開催して情報交換に努め、大学と家庭とが協力して学生が充実した学生生活を送れるように支援します。
- ・クラブ活動やボランティア活動等を積極的に支援し、こうした活動を通して人間性・社会性・協調性を培います。
- ・医学部及びスポーツ健康科学部は、1年生全員が1年間さくらキャンパスの学寮に入寮し、学部を越えて寝食を共にし、団体生活における「他を思いやる心の涵養」と「団体の中における個の確立」を目指します。
- ・留学生については、国際交流センターが生活面の相談に応じ、学修に専念できるように支援します。

「進路支援」の項目では、将来のキャリアを見据えた教育・指導、国家試験対策、教員養成の強化充実、組織的な就職支援等の支援方針を定めている。

＜進路支援＞

- ・入学後の早い段階から将来のキャリアを見据えた教育・指導を実践します。各種実習やインターンシップ等、体験型教育の充実を図ります。
- ・国家試験対策として、各種委員会・ワーキンググループにより組織的に支援します。
- ・教職課程センターを設置し、資質・能力の高い教員養成の強化充実を図ります。
- ・就職支援センターを設置し、さくらキャンパス就職課、さくらキャンパス就職支援室及び本郷・お茶の水キャンパス就職支援室に職員及びキャリアカウンセラーを配置し、それぞれの学生に適した指導、助言を行うとともに資料室を設け、進路に係る様々な情報提供を行います。
- ・就職については、附属病院説明会、各種就職説明会、ガイダンス等を定期的に開催し、各種委員会・ワーキンググループ・事務部門が連携して組織的に情報提供・就職支援を行います。

(大大評7-1 法人ホームページ 「各種方針」 「学生の支援に関する方針」)

2)2021(令和3)年3月には、『障がいのある学生の支援に関する基本方針』も制定し、ホームページに掲載している。差別的取扱いの禁止、合理的配慮の提供、相談・実施体制、情報公開、研修・啓発について規定している。

(大大評7-2 法人ホームページ 「各種方針」 「障がいのある学生の支援に関する基本方針」)

以上のことから、本学は、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を適切に明示していると評価する。

点検・評価項目②：学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されて

第7章 学生支援

いるか。また、学生支援は適切に行われているか。

≪1：学生支援体制の適切な整備≫

1) 各学部では、担任制やアドバイザー制を設けることで、学生一人ひとりに対するきめ細かな指導を行っている。例えば、医学部では、1年次は医学部一般教育の教員、2年次～4年次臨床実習開始前は基礎系講座から選出された教員、4年次の臨床実習開始後～5年次は臨床系講座から選出された教員、6年次には卒業支援委員を担任として配置している。保健看護学部では、各学年7～9名、4学年合わせて約30名の学生を教員2～3名で担当するアドバイザーグループ制となっている。修学、学生生活に係る支援については、各キャンパスの学生部で対応することに加え、学生相談室等も設けることで手厚くサポートすることとしている。進路支援については、就職支援センター（就職支援室）又は各キャンパス事務室（さくらキャンパスは就職課）にて行うこととしている。例えば、スポーツ健康科学部では、キャリアアップ関連講座、就職支援講座を計画的に実施するとともに、学生の個別相談に積極的に対応している。国際教養学部では、就職支援室職員、キャリア担当教員、ゼミナール担当教員により行っている。

（大大評3-1 学校法人順天堂組織規則 別表第1 学校法人順天堂 組織機構図）

（大大評7-3 学校法人順天堂事務組織規程 別表第2 事務分掌表）

2) 各学部には学生部委員会を整備し、毎月（8月を除く）委員会を開催して各種学生支援を行っている。また、学生部委員会が主体となり、全学部で統一した学生生活実態調査（アンケート）を実施し、定期的に学生生活及び学修行動の実態把握を行い、学生支援を充実させることとしている。

（大大評7-4 令和4年度 合同学生部委員会 学生生活実態調査結果比較資料）

3) 安全衛生については、「学校法人順天堂安全衛生管理規程」を制定し、安全衛生管理室に校医、保健師等を配置し、学生の保健管理を行っている。大学全体の保健管理を行う機関として、校医会を開催している。

（大総務7-1 学校法人順天堂安全衛生管理規程）

4) 学生生活を送る上での注意点や必要事項を記載した学生便覧や学生生活案内を学部・研究科ごとに作成し、新学期のオリエンテーションで配付・説明している。

（大医7-1 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学生生活案内）

（大ス7-1 順天堂大学さくらキャンパス CAMPUS LIFE）

（大ス4-2 スポーツ健康科学部学修要覧(2022)）

（大医看7-1 医療看護学部学生便覧）

（大保看7-1 保健看護学部学生便覧）

（大保医7-1 保健医療学部学生生活案内）

（大医科7-1 医療科学部学生生活ハンドブック）

（大院医4-1 大学院医学研究科修士課程シラバス）

（大院医4-2 大学院医学研究科博士課程シラバス）

（大院ス4-3 大学院スポーツ健康科学研究科要覧）

（大院看4-1 大学院医療看護学研究科教育要項）

（大院看4-4 大学院グローバルナーシングコース教育要項）

5) 保護者との関係では、保護者会との連携を図っている。保護者総会後の学年毎の保護者会で

第7章 学生支援

は、教員と保護者との懇談会を実施し、学年に応じた情報提供を行い、学生生活全般に関する支援状況を伝えている。更に、保護者との意見交換を行う等、大学と家庭との連携・協力に努めている。

- 6) 大学院研究科では、社会人学生が修学しやすいよう平日の夜間や土曜日に開講する等、修学全般にわたり、支援するという方針を明確にしている。大学院医学研究科では、社会人入学者に対して、ビデオ・オン・デマンド (VOD) 講義等の受講による単位認定を行っている。更に、特徴的なこととして、大学院医学研究科博士課程では、国立がん研究センター、国立国際医療研究センター及び国立病院機構相模原病院と連携大学院協定を締結している。同協定では、それぞれの機関に籍を置きながら、社会人学生として本学同研究科同課程の専門プログラム授業科目の単位を修得可能とし、各機関で行った研究の成果をもって学位の取得が可能となっている。

(大院医7-1 大学院医学研究科博士課程連携大学院)

(大大評1-5 大学院スポーツ健康科学研究科パンフレット)

(大大評1-6 大学院医療看護学研究科パンフレット)

- 7) 医学部とスポーツ健康科学部では1年次を全寮制とし、さくらキャンパスで寝食を共にすることとしている。全寮制は1947(昭和22)年度習志野キャンパス開設以来、協調性や社会性、コミュニケーション能力、親密な友人関係を築く場として活用され、本学の教育の特色ともなっている。学寮での団体生活における「他を思いやる心の涵養」と「団体の中における個の確立」を基本目標としている。COVID-19の影響により、2020(令和2)年度から、医学部生の入寮は叶わず、スポーツ健康科学部生だけの対応になっている。2020(令和2)年度から3年間は1室1名での運用で半数しか入寮できなかったが、2023(令和5)年度からは1室2名での運用に戻し、スポーツ健康科学部の学生は、原則、全員が入寮となった。

以上のことから、本学は、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を適切に整備していると評価する。

《2：学生の修学に関する適切な支援の実施》

【評価の視点】

- ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育
- ・正課外教育
- ・自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談対応、その他学習支援
- ・オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮（通信環境確保のための支援、授業動画の再視聴機会の確保など）
- ・留学生等の多様な学生に対する修学支援
- ・障がいのある学生に対する修学支援
- ・成績不振の学生の状況把握と指導
- ・留年者及び休学者の状況把握と対応
- ・退学希望者の状況把握と対応
- ・奨学金その他の経済的支援の整備
- ・授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供

第7章 学生支援

・修学支援における COVID-19 への対応・対策

＜学生の能力に応じた補習教育、補充教育＞

- 1) 国家試験への取り組みとして、オリエンテーション、特別講義、補講、模擬試験等を実施している。医学部では卒業支援委員会、医療看護学部及び保健医療学部では国家試験対策委員会、保健看護学部では国家試験対策ワーキンググループを組織し、取り組んでいる。例えば、医学部では、卒業支援を担当する教員が学習面・メンタル面のケアを行っている。成績下位学生には、学習の進捗状況を報告させ、個別対応を行う等の重点的なサポートを行っている。国家試験対策の外部講座・外部模試も積極的に活用し、現在の学力を客観的に把握させ、合格へのサポートを行っている。この外部講座・外部模試を実施している業者との調整等は、学生の自主組織である国家試験対策委員が行っており、教職員・学生が一体となって国家試験合格をバックアップする体制が整備されている。医療看護学部及び保健看護学部では、教員による個別相談や学生全体へのオリエンテーション、補講、模擬試験等を実施することで国家試験対策を行っている。
- 2) スポーツ健康科学部では、多くの学生が教員免許を取得し、教員採用試験を受験することから、進路指導室に、校長等、学校実務の経験が豊富な元教員 3 名を客員教授として採用し、教員採用試験に向けた勉強会を開催する等、教員採用試験合格に向けた学生のサポートを実施している。
- 3) 補充教育の一環として、医学部、医療看護学部及び保健看護学部では e-learning コンテンツを導入している。医学部では、「manaba」を導入しており、講義・学習の予習と復習、学生からの質問の受け付けに活用し、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談対応、その他学習支援に活用されている。「manaba」には、特定の科目において仮進級者を対象としたコースを設けており、担当教員によるフォローアップも行われている。保健看護学部でも「manaba」を導入しており、講義・実習等の受講支援に活用している。

＜正課外教育＞

- 1) 各学部では、SA（スチューデント・アシスタント）等の制度を活用してきめ細かい指導を行っている。例えば、医学部では、留学生等の多様な学生に対する修学支援について、1 年次の各科目・分野（英語、数学、物理、化学、生物、留学生支援）で得意な学生が他の学生の学習支援をする SA（15 名程度）を配置している。また、スポーツ健康科学部では、成績優秀な学生（ラーニング・アシスタント）による学修フォローアップのための勉強会を Zoom により開催している。医療看護学部では、SA を活用した上級生による下級生の学修支援を行っている。SA は公募制で面接により意欲・成績ともに優れた学生を採用しており、下級生の学修の動機付けや学力向上に向けた支援体制として機能している。
- 2) 国際教養学部では、言語学習センターを設置しており、常駐している教員による外国語学習におけるカウンセリングを受けることができ、正規カリキュラムと自習を有機的に連動させ、学修成果を上げられ、自立性を育む環境を整えている。
- 3) 医学部及び大学院医学研究科では、正課外のカリキュラムとして順天堂国際医学教育塾を開講している。英語総合コースと TOEFL iBT・IELTS 対策コースを設け、TOEFL・IELTS 等の国際基準の英語テストで高得点を獲得するための教育、ハイレベルな英語でのプレゼンテーションや医療面接の指導を行っている。また、国内で医学教育を受け、医師免許を取得した医師が米国で医療行為を行うためには、USMLE（United States Medical Licensing

第7章 学生支援

Examination:米国医師国家試験)を受験し、「ECFMG certificate (米国での臨床研修資格)」を取得する必要があるため、ECFMG certificateの取得を目指す学生に対する教育支援も行っている。2022(令和4)年度からはUSMLE対策コースを増設した。

(大院医7-2 順天堂国際医学教育塾実施要項)

- 4)海外研修に関する支援として、国際教養学部では、主に語学力が一定基準に満たない1年生への補完として、夏季休暇期間に4週間に亘るフィリピン・セブ島での語学研修を実施している。例年多くの学生が参加しているが、2020(令和2)年度から、COVID-19の感染拡大の影響により、現地での研修に代わりオンラインプログラムとなっていたが、2022(令和4)年度は、海外への渡航制限が緩和されたことにより、現地研修を再開した(夏期43名、春期3名が参加)。この他、同学部では、米国、カナダ、タイ、シンガポール、オーストラリア等の大学での海外研修制度も設けている。医療看護学部では、英国(デモンストフォート大学)、米国(マイアミ大学)での語学・看護研修やタイ(タマサート大学看護学部)での授業・実習へ参加できる短期研修を用意している。保健看護学部では、2022(令和4)年8月にウズベキスタン共和国で海外研修を実施し、米国ユタ州立大学とのZoomを用いた交流会を定期的に行っている。

<学生からの相談対応>

- 1)全学部・研究科において、学生の質問・相談等に応じるための時間として、オフィスアワーを設定し、学生からの相談に応じる体制を整備している。

<オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮>

- 1)オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮として、オンデマンド配信による授業では、講義ごとに一定期間、動画視聴期間を設け、授業動画の再視聴機会を確保している。

<多様な学生に対する修学支援>

- 1)国際教養学部では、外国籍学生や留学生等の一部において日本語能力が多少不自由な学生も存在する。対象学生については、担任を中心とした個別対応と併せて、必要に応じて、国際交流センターと連携の上、別途日本語教育を実施している。外国人留学生の受入数増加により、授業外活動(自主学習等)においても支援を必要とする学生がおり、大学院生又は学部生が「学生チューター」として、担当教員の監督の下、自主学習等の支援を行う体制が整備されている。
- 2)大学院医学研究科では、2022(令和4)年度より10月秋入学の外国人留学生を対象とし、英語による授業のみで学位取得が可能な教育課程を開講した。なお、外国人留学生を対象とした日本語修得のための講義(「日本語講座」「日本語集中プログラム」)は、全学の外国人学生等(学部学生、大学院生、研究生、研究員等)も受講できるよう国際交流センターが主体となって開講している。
- 3)大学院各研究科では、社会人学生を受け入れていることから、社会人学生への配慮として、平日の夜間や土曜日にも開講し、社会人学生が修学しやすいように時間割を工夫している。

(大院医7-3 大学院医学研究科修士課程年間授業時間割表)

(大院医7-4 大学院医学研究科博士課程年間授業時間割表)

(大院ス7-1 大学院スポーツ健康科学研究科年間授業時間割表)

(大院看7-1 大学院医療看護学研究科年間授業時間割表)

第7章 学生支援

＜障がいのある学生に対する修学支援＞

1) 障がいのある学生については、『障がいのある学生の支援に関する基本方針』に基づき、個々の事情を勘案し、各委員会で状況を報告して必要な対応を行っている。キャンパス内の必要な箇所に、手すり、エレベーター、障がい者用トイレ、教室内スロープや車椅子用の机が設置されている。さくらキャンパスでは、教室内の座席の位置や、配布資料の文字の大きさを工夫する等、視覚障害や肢体不自由な学生に対しては個別に対応できる準備を整えている。受験の申し出があれば、入試委員会で受験資格や対応の確認を行い、入学後は、学生部を中心に支援しており、対応後も学生に定期的にヒアリングを行い、継続的に支援している。

＜成績不振の学生、留年者、休学者、退学希望者の状況把握と対応＞

1) 授業を欠席しがちな学生や、成績不良者には各教科の担当教員や学生部長、学部長が面談等により指導し、留年者を出さないように取り組んでいる。留年者には、担任又はアドバイザーが重点的なケアを実施している。特にメンタル面でのケアを重視し、必要に応じて各委員会や関係各部署と連携を取り、対応している。また、休・退学希望者については、その理由について本人・保護者・担当教員が面談等を通じて把握し、再修学を基本とした指導・支援を行っている。最終的に休・退学を希望する場合は、願書を提出させて教務委員長、学生部長、学部長が確認のうえ、教授会で審議し、学長が許可している。また、研究科においても講義受講状況や研究進捗状況等を確認する等、研究指導教員及び各キャンパス事務室が連携を取りながら状況把握を行い、指導・支援を行っている。

＜奨学金その他の経済的支援の整備、情報提供＞

1) 全学・各学部・研究科の奨学金を用意するとともに、日本学生支援機構の奨学金等の外部機関の奨学金を案内することで、修学支援を図っている。

(大学基礎データ 表7)

2) 「災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程」を定め、非常災害等の被災による経済的理由から、修学が著しく困難となった学生に対し、学納金の全額又は一部を免除することにより、学業の継続及び進学のを支援している。

(大総務7-2 災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程)

3) 「順天堂大学外国人留学生奨学金給付規程」を定め、私費外国人留学生に対し、その経済的負担を軽減するため、奨学金を給付し、学業の継続及び進学のを支援している。

(大総務7-3 順天堂大学外国人留学生奨学金給付規程)

4) 他の学生の模範となる、成績優秀者(学部学生)を対象とし、学納金を減免することで教育研究の活性化を図っている。

(大学基礎データ 表7)

5) 「順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金」を定め、国際的に活躍し、学生・教職員の模範となる人材を対象とし、教育・研究・競技の活性化を図っている。同奨学金には、派遣の区分で「短期海外研修補助奨学金(5~15万円)」、「外国留学支援奨学金(15万円)」、「国際大会レベル競技会出場支援奨学金(5~30万円)」、語学の区分で「外国語教育(TOEFL)推進支援奨学金(3万円)」、「日本語教育(日本語能力試験)推進支援奨学金(N1:5万円、N2:3万円)」、資格の区分で国際ライセンス取得支援特別奨学金「(3~100万円)」が設けられている。

(大総務7-4 順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金給付規程)

第7章 学生支援

6) 教員に限らず大学院生も応募可能な研究費として、学内の公募型研究費制度である医学部の「共同プロジェクト研究費」を設けている。「共同プロジェクト研究費」は、若手研究者の研究力強化と大学院生が大学院修了後に速やかに科研費等競争的資金へ応募ができるよう練習を兼ね、1課題につき60万円を上限とし、2022(令和4)年度は41名の大学院生が採択されている。

(大研戦7-1 共同プロジェクト研究募集要項)

7) 大学院医学研究科では、博士課程入学者のうち医師免許を有し、本学医学部附属病院において診療業務に携わった大学院生に対して、本学規定に基づき給与が支給されている。

＜修学支援における COVID-19 への対応・対策＞

1) COVID-19の影響により、経済的支援が必要な学生に対し、利用可能な給付金申請支援や学納金延納・分納の対応をとった。また、感染予防講習会も開催した。

以上のことから、本学は、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生の修学に関して適切な支援を実施していると評価する。

＜3：学生の生活に関する適切な支援の実施＞

【評価の視点】

- ・学生の相談に応じる体制の整備
- ・ハラスメント(アカデミック、セクシュアル、モラル等)防止のための体制の整備
- ・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮
- ・人間関係構築につながる措置の実施(学生の交流機会の確保等)
- ・生活支援における COVID-19 への対応・対策

1) 学部学生の生活全般の相談(心の健康・対人関係・学業や進路・クラブ活動・寮生活・その他の生活一般)に応じる体制として、担任制やアドバイザー制が整備されている。この他、相談窓口として学生相談室等を設置しており、精神科医(学生相談室長)、臨床心理士・公認心理師及び担任・アドバイザー教員を含むスタッフが、カウンセラーとして対応できるような体制を整備している。また、大学院生に対しても同様の体制を整備している。相談体制については、学生便覧、学生相談室のしおり等にて学生へ案内している。

2) ホームページに「ハラスメント対策」を掲載している。ハラスメントをセクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント等、行為者本人の意図のいかんに関わらず、相手方の人権や人格的尊厳を傷付ける不適切な言動と定義し、「1 ハラスメントとは?」、「2 被害者・加害者を出さないために」、「3 もしハラスメントの被害にあってしまったら…」について説明している。ヘルプラインの部署も教職員、学生ごとに掲載している。

(大人事7-1 ホームページ 「ハラスメント対策」)

3) 「学校法人順天堂におけるハラスメントの防止等に関する規程」及びキャンパスごとに「人権委員会規程」を制定し、ハラスメントを防止する体制を整備している。医学部では、「学生生活案内」に「ハラスメント防止について」「SNSにおける注意事項について」等の諸注意を掲載している。スポーツ健康科学部では、新学期ガイダンスの際、「学生相談室のしおり」、「STOP! HARASSMENT」のリーフレットを配布し、相談窓口を周知している。

(大人事7-2 「順天堂ニュース2016 7月1日号 NO.2126 P32~P40」)

第7章 学生支援

- 4)各キャンパス安全衛生管理室に校医や保健師を配置しており、日常的な学生の健康サポートを行っている。具合が悪くなった際の迅速かつ手厚いサポートをとれる体制を整備している。健康診断は、春期に全員を対象に実施し、秋期は健康管理室より指示された者を対象に実施している。また、無料でインフルエンザ予防接種を実施しており、病院実習前には麻疹・風疹・水痘・ムンプスの予防接種を受けるよう指導している。新型コロナウイルス感染を疑われる症状が出た場合、速やかに安全衛生管理室へ連絡を入れて状況説明を行い、受診、待機、検査等その後の行動について指示を仰ぐ体制が整っている。感染が疑われる学生の情報は、陽性、陰性に関わらず、安全衛生管理室、各キャンパス事務室で最新の情報を共有している。
- (大総務7-1 学校法人順天堂安全衛生管理規程)
- 5)「順天堂大学職員・学生等の寮管理規程」では、学生(大学院生含)、臨床研修医、海外留学生等にも入寮資格が与えられており、居住環境の支援が行われている。
- (大人事7-3 順天堂大学職員・学生等の寮管理規程)
- 6)学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度等に全学生が加入することで、教育、研究中の不慮の事故に備えている。また、不慮の事故に遭遇した場合の対処方法について、学生便覧に記載し、新学期オリエンテーションで確認している。
- (大大評7-5 学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度)
- 7)課外活動が盛んで、原則、教授又は先任准教授がクラブ又は同好会の部長・顧問となり指導している。
- 8)COVID-19 流行下であっても、人間関係構築につながるように、極力、学生の交流機会を確保するように努めている。例えば、医学部では、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型の授業形態を採用しており、一定の学生の交流機会が確保されている。また、人間関係構築の上でも重要なクラブ活動についても、学生部委員会が策定した COVID-19 流行下の部活動の再開・中止の方針に則り、適切に活動が行われている。スポーツ健康科学部では、COVID-19 流行の状況に応じてZoomあるいは対面で担任会やゼミナール授業を実施している。
- 9)新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 予防の観点より、学生相談室における臨床心理士・公認心理師(学内カウンセラー)による「こころの相談」等についてはオンライン(電話あるいはZoomでの相談)で実施できる体制を整えている。

以上のことから、本学は、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生の生活に関して適切な支援を実施していると評価する。

《4：学生の進路に関する適切な支援の実施》

【評価の視点】

- ・キャリア教育の実施
- ・学生のキャリア支援を行うための体制(キャリアセンターの設置等)の整備
- ・進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施
- ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供
- ・進路支援における COVID-19 への対応・対策

- 1)卒業時に国家試験受験資格を与える学部(医学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療

第7章 学生支援

学部、医療科学部)では、教育カリキュラム全体がキャリア教育であるが、キャリア形成に関して考察を深めることができる科目をそれぞれ設定している。例えば、医学部では、「医の原則・医学と医療の倫理等に関係する内容が含まれる授業科目」の一覧を作成し、教育要項上で明示している。医療看護学部では、3年前期に「看護職キャリア開発論」を開講している。一方、企業、官庁等の就職が主となる学部(スポーツ健康科学部、国際教養学部)では、入学後の早い段階からキャリア教育を実施している。スポーツ健康科学部では、2年次に「キャリアデザイン」を正課の授業に取り込んで展開している。国際教養学部ではキャリア教育を1年次より正規の科目として単位化している。入学時より、全学生を対象にキャリアポートフォリオを配布し、授業やキャリア相談における情報を就職活動で活用出来るようにしている。

- 2) キャリア支援体制として、医学部に卒業支援委員会を、スポーツ健康科学部に就職課・就職委員会を、医療看護学部国家試験対策委員会を、保健看護学部国家試験対策ワーキンググループ・キャリア支援ワーキンググループを、国際教養学部就職支援室・キャリア支援委員会を、保健医療学部及び医療科学部にキャリア支援委員会を置き、各学部の特色に合った資格取得支援・進路支援・就職支援を行っている。大学院各研究科では、それぞれ研究指導教員及び研究指導補助教員が中心となり、進路指導・キャリア支援を行っている。
- 3) スポーツ健康科学部及び国際教養学部には教職課程が設置されており、全学的な教職課程運営組織として、「教職課程センター」を設け、教員養成を推進している。また、企業、官庁等の就職支援を推進することを目的に、「就職支援センター」を設置している。さくらキャンパス及び本郷・お茶の水キャンパスには、それぞれ「就職支援室」を設置し、連携を図りながら、学部生、大学院生の就職支援の任に当たっている。

(大大評3—11 順天堂大学教職課程センター管理運営規程)

(大大評7—6 順天堂大学就職支援センター管理運営規程)
- 4) 各学部において、進路希望に応じたオリエンテーションや研修会等を開催している。医学部では、初期臨床研修マッチングに関するオリエンテーションや医学部附属病院の説明会を開催している。スポーツ健康科学部では、就職支援研修会・講座を年間延べ130日行っている。医療看護学部及び保健看護学部では、医学部附属6病院就職説明会や就職試験対策講座、マナー研修会等も開催している。国際教養学部では、学期始めにはキャリアガイダンスを実施し、就職活動に対する意識醸成を図るとともに、年間を通じて、就職対策や業界紹介等の支援行事・セミナーを実施し、就職に対する意識を高めることに努めている。2022(令和4)年度のキャリア支援セミナー開催数は64回を数え、参加者は延べ893名であった。

(大ス7—2 スポーツ健康科学部 令和4年度 就職支援研修会・講座行事予定)

(大科教7—1 国際教養学部 就職支援行事スケジュール表2022)
- 5) 学生への情報提供及び学内の情報蓄積の質と量を高める手段として、スポーツ健康科学部では、2020(令和2)年12月より「順大就職NAVI」を導入している。求人・インターンシップの情報収集の他、OB・OGの追跡、各種ガイダンスの参加申し込み及び就職支援に係るオンライン書籍の閲覧が可能になり、また大学側では学生の活動状況のフォローや各種統計資料作成の効率化が図れるようになっている。
- 6) 博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供について、大学院医学研究科では、博士課程に在籍する医師には医学部附

第7章 学生支援

属病院において医学部学生に対する臨床実習指導を通じて、また医学研究者には医学部3年次基礎ゼミナールにおいて医学部学生に対する実験指導を通じて、それぞれ学識を教授するために必要な能力を培うための機会を得ている。また、医学研究科各研究センターではリサーチ・アシスタント（RA）の募集を行い、博士課程の大学院生に対して研究者としてのキャリアアップの機会を提供している。大学院スポーツ健康科学研究科では、博士前期課程及び後期課程の学生に対して学部のティーチング・アシスタント（TA）を募集し、教育経験を積む機会を増やしている他、博士後期課程の学生に対してはRAの募集も行っている。大学院医療看護学研究科では、博士前期課程・博士後期課程の両課程でTA制度を導入しており、採用された大学院生は学部講義の補助を行っている。経済的な支援のみならず、大学院生が将来教員や研究者になるにあたり学識を教授するために必要な能力を培うための機会を提供している。

- 7) COVID-19 感染予防の観点から、各学部で例年開催している就職支援講座・セミナーをオンラインで実施した。例えば、スポーツ健康科学部では、Zoomを活用した双方向の就職支援講座や、業者と協議を重ねて作成した動画の配信、更に、従来は学内のみで開催していた模擬試験等も自宅受験ができるようにした。また、オンラインツールを使用した面談も多く行われた。学生にとっても、移動時間の節約、企業採用試験の練習に繋がる等の利点が認められた。

以上のことから、本学は、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生の進路に関して適切な支援を実施していると評価する。

《5：学生の正課外活動(部活動等)を充実させるための支援の実施》

- 1) 各学部において、部活動に対する活動費について、活動内容や状況に応じて補助を行っている。
- 2) スポーツ健康科学部では、運動部の指導者で組織された運動部指導者会（年2回）とスポーツ推進支援センター運営委員会（毎月）で、運動部における諸問題を話し合っている。
- 3) 医学部及び大学院医学研究科では、研究留学、海外研修等で英語力を問われるケースに対応できるよう、ハイレベルな英語でのプレゼンテーションや、医療面接の指導を目的として順天堂国際医学教育塾(Juntendo International Institute for school of Medicine:JINISM)を開講している。
(大院医7-2 順天堂国際医学教育塾実施要項)
- 4) 大学院スポーツ健康科学研究科では、連携協定を締結している自治体やスポーツ競技団体等から、スポーツや健康に関する指導員としての派遣依頼があった際、大学院生に紹介し、派遣している。

以上のことから、本学は、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生の正課外活動を充実させるための適切な支援を実施していると評価する。

《6：その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施》

- 1) 毎年1回、定期的に合同学生部委員会を開催し、各学部学生部長から活動状況の報告を行い、学生の要望に応じた学生支援が行われているか、把握している。

第7章 学生支援

(大大評7-7 7学部 合同学生部委員会議事録(令和4年12月))

- 2)各学部におけるカリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会、教務委員会、学生部委員会及びFDワークショップには代表学生が参加しており、カリキュラムに対する学生の意見・要望を吸い上げ、対応するようにしている。

以上のことから、本学は、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していると評価する。

点検・評価項目③：学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【評価の視点】

- 1：適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価
2：点検・評価結果に基づく改善・向上

- 1)本学は、毎年度、大学・各学部・研究科・管理部門等の単位で、(公財)大学基準協会の大学基準に準拠し、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を行っている。学生支援についての適切性は、各学部・研究科において、それぞれ根拠資料に基づく点検・評価を行っている。点検・評価の結果、認識された問題点については、当該部署を中心に改善に取り組み、次年度末までに内部質保証推進委員会委員長宛に改善状況報告書を提出することとしている。問題点及び改善状況は一覧表にまとめられ、毎年度、自己点検・評価運営委員会及び内部質保証推進委員会で検証された後、学長に報告される。学長は更なる改善が必要な場合には、必要な指示を出すという仕組みになっている。近年、改善した事例のうち主なものは次の通りである。

全学的な取り組みとして、本郷・お茶の水キャンパスにおいて、留学生増員に対応すべく、留学生寮(80室程度)の整備計画が進められており、2024(令和7)年6月末に竣工の予定である。

学部の取り組みとして、例えば、スポーツ健康科学部では、2021(令和3)年に立ち上げた「順大就職NAVI」に「順天堂大学キャリア支援サイト」を追加した。学生向けの「就職活動編」、「社会探求編」と併せて「保護者編」も立ち上げた。

(大大評2-14 第16次(令和3年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ)

(大大評2-42 自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録_令和4年5月)

(大大評2-33 内部質保証推進委員会(R4-2)議事録_令和4年5月)

- 2)全学部生を対象とした学生生活実態調査(アンケート)において、大学による学生支援に関する調査項目を設け、合同学生部委員会にて実態を把握しており、調査結果に基づき各委員会において支援の在り方等を検証し、学生にフィードバックすることにより、点検・評価及び改善・向上が図られている。

(大大評7-7 7学部 合同学生部委員会議事録(令和4年12月))

- 3)各学部では、毎月、学生部委員会を開催し、学生支援の適正について点検・評価し、それを基に改善・向上が図られている。また、適宜、学生にも委員会に参加してもらい、生の声を聞く等の工夫をしている。

第7章 学生支援

(2) 長所・特色

《学生支援・相談体制》

1) 本学の学生支援は、教員と学生間の距離が近いことが特徴であり、学生が学修を円滑に進めていくことができ、安心して学生生活を送れるように、担任制やアドバイザー制による指導・相談体制を整備している。学修面、学生生活面等できめ細かな指導・支援ができていく証左として、本学は各種国家試験、企業就職内定率、教員採用試験において、良好な成績を残している。今後も、教員と学生間の距離を近くして、学生一人ひとりが個性を發揮し、充実した学生生活を送れるよう支援を行っていききたい。

《国家試験に向けた支援》

2) 本学は、前述の担任制やアドバイザー制の整備に加え、国家試験に向けた支援も充実している。医学部では、外部講座・外部模試の他、教員の卒業支援委員会による学修面・メンタル面のケア、学生自主組織の国家試験対策委員会の活動、6年生勉強部屋(グループで使用)の準備等、教職員・学生が一体となった取り組みにより、国公立大学81校中、過去5年間平均・過去10年間平均ともに第2位の国家試験合格者を誇っている。医療看護学部や保健看護学部でも、補講、模擬試験、国家試験向け特別講義等による支援を行い、高い合格率を維持できている。今後も、各種支援を継続し、高い合格率を維持していききたい。2022(令和4)年度に完成年度を迎えた保健医療学部でも、高い国家試験合格率となった。(理学療法士100%、診療放射線技師98.2%)

(大大評4-8 学生生活・キャリアサイト 「卒業後の進路」)

《就職支援・キャリア支援》

3) 企業、官庁等の就職が主となる学部(スポーツ健康科学部、国際教養学部)では、入学後の早い段階から将来のキャリアを見据えた教育・指導が実践できていることが、企業就職内定率や教員採用試験で良好な成績を残している理由である。スポーツ健康科学部では、2年次より学生能力開発支援(キャリア支援)を目的とした科目を開講し、3年次にはそれぞれの進路目標毎に研修会・講座を用意している。3年次後半からはエントリーシートの添削、模擬面接等個人指導に重点を置く計画的な支援、フォロー体制が整備されている。教員採用試験については、進路指導室による正課外でのグループ学習等の支援が充実している。国際教養学部では、入学時より、全学生を対象にキャリアポートフォリオを配布し、授業やキャリア相談における情報を就職活動で活用出来るように支援している。今後も、早い段階からのキャリア教育を継続するとともに、対面の良さとWeb機能の利便性を組み合わせたハイブリッド型のキャリア支援の充実を図っていききたい。

(大大評4-8 学生生活・キャリアサイト 「卒業後の進路」)

《学生支援の適切性の点検・評価》

4) 各学部では、毎月、学生部委員会を開催し、学生支援の適正について点検・評価し、改善・向上が図られている。また、全学部で統一した学生生活実態調査(アンケート)を実施し、定期的に学生生活及び学修行動の実態が把握できおり、実態を踏まえた指導が行えている。学生生活実態調査(アンケート)は継続実施し、学生生活及び学修行動の実態把握に努め、きめ細かい学生支援を行っていききたい。

第7章 学生支援

(3) 問題点

なし

(4) 全体まとめ

本学の学生支援の基本方針はホームページに掲載をしており、学納金減免、奨学金に係る各種規程も整備している。各学部・研究科において、学生支援を行う専門の部署があり、学修に専念できるよう各種支援を行っている。毎年、全学部で統一した学生生活実態調査を実施し、学生生活及び学修行動の実態把握を行うことにより、学生支援の充実を図っている。

修学支援として、各学部・研究科において、オフィスアワーを設け、補充教育や学生の自主的な学習を促進するため、e-learning等のコンテンツも整備している。

生活支援として、各キャンパス安全衛生管理室に校医や保健師を配置しており、日常的な学生の健康サポートを行っている。具合が悪くなった際の迅速かつ手厚いサポートをとれる体制を整備している。学生の心身の健康、保健衛生等に係る指導、相談等を適切に行うため、学生相談室等を設置しており、カウンセリングの体制を整備している。各キャンパスではハラスメントのない教育研究環境を確保するよう努めている。

国家試験や教員採用試験に対する取り組みは、対策委員会やワーキンググループ等の活動が有効に機能し、高い合格率を誇っている。各学部・研究科の特色にあった進路支援、就職支援が行われている。

学生支援の適切性については、毎年度の自己点検・評価及び合同学生部委員会にて点検・評価し、その結果を改善・向上に結び付けている。各学部では、毎月学生部委員会を開催し、点検・評価し、その結果を改善・向上に結び付けている。また、適宜、学生にも委員会に参加してもらい、生の声を聞く等の工夫をしている。

第7章 学生支援

(5) 根拠資料

資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
1	大大評7-1	法人ホームページ 「各種方針」 「学生の支援に関する方針」 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/
2	大大評7-2	法人ホームページ 「各種方針」 「障がいのある学生の支援に関する基本方針」 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/
3	大大評3-1	学校法人順天堂組織規則
4	大大評7-3	学校法人順天堂事務組織規程
5	大大評7-4	令和4年度 合同学生部委員会 学生生活実態調査結果比較資料
6	大総務7-1	学校法人順天堂安全衛生管理規程
7	大医7-1	順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学生生活案内
8	大ス7-1	順天堂大学さくらキャンパス CAMPUS LIFE
9	大ス4-2	スポーツ健康科学部学修要覧(2022)
10	大医看7-1	医療看護学部学生便覧 https://www.juntendo.ac.jp/life/support/nurs/application/
11	大保看7-1	保健看護学部学生便覧 https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hsn/application/
12	大保医7-1	保健医療学部学生生活案内 https://www.juntendo.ac.jp/life/support/hs/consultation/
13	大医科7-1	医療科学部学生生活ハンドブック
14	大院医4-1	大学院医学研究科修士課程シラバス https://mr-syllabus.juntendo.ac.jp/
15	大院医4-2	大学院医学研究科博士課程シラバス https://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/
16	大院ス4-3	大学院スポーツ健康科学研究科要覧 https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/about/directory/
17	大院看4-1	大学院医療看護学研究科教育要項 https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/pamphlet/pamphlet/
18	大院看4-4	大学院グローバルナーシングコース教育要項
19	大院医7-1	大学院医学研究科博士課程連携大学院
20	大大評1-5	大学院スポーツ健康科学研究科パンフレット https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/about/pamphlet/
21	大大評1-6	大学院医療看護学研究科パンフレット https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/nurs/pamphlet/pamphlet/
22	大院医7-2	順天堂国際医学教育塾実施要項

第7章 学生支援

資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
23	大院医7-3	大学院医学研究科修士課程年間授業時間割表 https://mr-syllabus.juntendo.ac.jp/
24	大院医7-4	大学院医学研究科博士課程年間授業時間割表 https://dr-syllabus.juntendo.ac.jp/
25	大院ス7-1	大学院スポーツ健康科学研究科年間授業時間割表 https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/master/curriculum/ https://www.juntendo.ac.jp/academics/graduate/hss/doctor/curriculum/
26	大院看7-1	大学院医療看護学研究科年間授業時間割表
27	大総務7-2	災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程
28	大総務7-3	順天堂大学外国人留学生奨学金給付規程
29	大総務7-4	順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金給付規程
30	大研戦7-1	共同プロジェクト研究募集要項
31	大人事7-1	ホームページ 「ハラスメント対策」 https://www.juntendo.ac.jp/about/university/plan/harassment/
32	大人事7-2	順天堂ニュース 2016 7月1日号 NO.2126
33	大人事7-3	順天堂大学職員・学生等の寮管理規程
34	大大評7-5	学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度
35	大大評3-11	順天堂大学教職課程センター管理運営規程
36	大大評7-6	順天堂大学就職支援センター管理運営規程
37	大ス7-2	スポーツ健康科学部 令和4年度 就職支援研修会・講座行事予定
38	大科教7-1	国際教養学部 就職支援行事スケジュール表 2022
39	大大評7-7	7学部 合同学生部委員会議事録(令和4年12月)
40	大大評2-14	第16次(令和3年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ
41	大大評2-42	自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録_令和4年5月
42	大大評2-33	内部質保証推進委員会(R4-2)議事録_令和4年5月
43	大大評4-8	学生生活・キャリアサイト 「卒業後の進路」 https://www.juntendo.ac.jp/life/result/